

# 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○12月23日～

先週は日米の金融政策を決める会合がありました。米国は利下げ、日本は金利据え置きと予想通りとなりました。

発表直後は多少の乱高下がありましたが、12月初めから続いているドル／円の上昇トレンドに大きな変化はみられません。

ただし、米国株が今月に入ってからずっと軟調な動きとなっているため米国株の下げが止まらない場合、年末にかけてリスク回避的な動きが強まる可能性もあります。

日本株は日本の利上げ見送りのため円安継続の思惑もあり、今のところ大きな下げにはなっていません。

先週、植田・日銀総裁はトランプ政権の政策や来年の春闘での賃上げ動向も判断材料にしたいと発言したこと、1月利上げではなく、来年春の利上げの可能性が高いとの予想が強まっています。利上げ時期が遅れれば円安が再び進行し、ドル／円が再度160円をトライする動きが出るかもしれません。

植田総裁の発言内容は、かなり利上げに後ろ向き(ハト派)になっていると感じた人が多いようです。来年になってもいつ利上げをするのか明確にはわからない状況です。

そして、米国は来年の利下げ回数が2回になるという予想が多く、思っていたよりも利下げ回数が減ってきてています。これはドル高要因となります。

FRBのパウエル議長の会見はタカ派(金融引き締めに前向き)と受けとめられました。

政策的に見ると米国の利下げと日本の利上げが遠のくことで、円安ドル高が再燃するとの指摘もありますがトランプ氏が円安を強くけん制してくるとの見方もあり、読みにくい状況です。

また、欧州の政治的混乱は続いており、ユーロ／ドルの下落トレンドは続きそうです。

トランプ政権になると関税や政策などがどうなっていくのか不明な部分も多く、しばらく方向感がはっきりしない動きになるかもしれません。

今週はクリスマスの週ということで、多くの国が25日は休場となります。

FX取引も25日は15時過ぎで取引ができなくなります。

この日は株の取引時間終了と同じ時間に為替取引も終わるというような感じですので注意。

さらに、その前後も休場となる国が多く、取引量がいつもより少なくなります。

クリスマスは相場があまり動かなくなる事が多いのですが、流動性が低くなる影響で、たまに大きな動きが出ることがあります。

ということで、ポジション管理はしっかりしておきたいです。

- テクニカルで見た重要なポイントは？

# 今週の相場はどうなる？

## <ドル／円>

先週のドル／円は、日米の金融政策の発表後、大きく上昇し、158円あたりまで値を伸ばしました。ただし、週末にかけて利益確定の動きも出たのか下げる、156円台半ばでマーケットは終わっています。

下値は156円を割り込むと154円台半ばまで下がる可能性があります。

154円台のサポートを維持できれば、再度158円を目指す動きが期待できそうです。

154円割れとなった場合は、153円台前半あたりが次のサポートになりそうです。

上値は156.8—157円あたりの抵抗を超えると158円が視野に入ってきそうです。

## <気になるクロス円>

クロス円も今月に入ってから上昇が続いているペアが多く、ドル／円の上昇トレンドが崩れるまでは堅調な動きが期待できそうです。

オセアニア通貨はやや動きが弱く、オーストラリアはインフレがおさまりつつあることで、来年利下げに動くとの思惑が強まれば売られやすくなります。

NZドルも今月に入ってから87—89円程度のレンジで停滞した動きになっています。

米国株がさらに下がるような動きが出ると、リスク回避的な動きが高まるので注意しながらトレードしたいです。

\*クロス円とは円との通貨ペアの総称：○○／円というような通貨ペアのことです。

## <今週のファンダメンタル？>

日本では日銀・金融政策決定会合議事要旨、植田・日銀総裁発言、12月東京都区部消費者物価指数、11月鉱工業生産などがあります。

米国では12月消費者信頼感指数(コンファレンス・ボード)、11月耐久財受注、11月新築住宅販売件数、12月リッチモンド連銀製造業指数、前週分新規失業保険申請件数などが発表されます。

欧州では特に指標発表はありません。

24日から26日までドイツなどがクリスマスで休場

ほかには、英国で7—9月期GDP(改定値)、カナダで10月GDPの発表などがあります。